久慈港長期構想検討委員会

第１回委員会・幹事会

議事録

日時：令和４年９月21日（水）14：00～16：00

場所：盛岡会場　岩手県公会堂　26号室

久慈会場　久慈市役所　車庫棟３階　会議室２・３

ＷＥＢ会議場にて開催

１　開会

○大澤港湾課港湾整備担当課長　定刻となりましたので、始めさせていただきたいと思います。ただいまから第１回久慈港長期構想検討委員会及び幹事会合同会議を開催いたします。

本日は御多用の中、御出席いただきましてありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます県土整備部港湾課、大澤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

次第に従いまして、進行させていただきます。

まずは、資料の確認をさせていただきたいと思います。お手元のほうに資料があると思いますけれども、まず資料―１、委員名簿、幹事名簿、資料―２、配席図、資料―３、久慈港長期構想検討委員会設置要綱、資料―４、久慈港長期構想検討委員会幹事会運営要領、資料―５、久慈港の現状と課題及び策定の方向性について、資料６―委員会・幹事会スケジュールとなります。お手元に資料はそろっていますでしょうか。もし資料がない場合は、事務局のほうまでお申出ください。

なお、今回の会議につきましては、県の審議会等の会議の公開に関する指針により、原則として公開とすることとしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次に、本委員会の開会要綱について御報告いたします。委員26名中現在21名でございますので、久慈港長期構想検討委員会要綱第５条第２項の規定により、本委員会が開催要件を満たしていることを御報告いたします。

２　挨拶

○大澤港湾課港湾整備担当課長　それでは、進行させていただきます。

初めに、田中県土整備部長より挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

○田中県土整備部長　岩手県県土整備部長をしています田中でございま

す。開会に当たりまして、一言御挨拶させていただきます。

まず、本日はお忙しい中、久慈港長期構想検討委員会第１回委員会・幹事会に御出席をいただき、大変ありがとうございます。また、御出席の皆様方におかれましては、常日頃港湾をはじめとする県土整備行政に対しまして御理解と御協力をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

さて、皆様方に御検討をお願いする長期構想についてでありますが、これは20年から30年程度先を見据え、久慈港の利用及び整備に当たっての基本目標、目標実現に必要な港湾の機能、機能ごとの区域設定、ゾーニングというものですが、などを盛り込む長期的なビジョンになります。

検討を進めるに当たって、久慈港を取り巻く最近の環境変化として５つほど挙げさせていただきますと、１点目は、国により進められている湾口防波堤の整備進展による久慈港の静穏域の拡大と取扱貨物量の増加、２点目は、令和３年12月の三陸沿岸道路の全線開通による移動時間の短縮と物流の円滑化、３点目は三陸沿岸道路久慈北インターチェンジに隣接する道の駅「いわて北三陸」の令和５年春の完成による新たな賑わい拠点の形成、４点目は、再エネ海域利用法に基づく一定の準備段階に進んでいる区域として整理されている久慈市沖での浮体式洋上風力発電に係る調査実施、５点目として、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、洋上風力発電設備の建設、維持管理を担う港湾であります基地港湾の在り方に係る国の検討であります。

本日は、こうした久慈港の現状や取り巻く環境変化など委員の皆様方と共有させていただくとともに、久慈港の目指す方向性などについて専門的な見地から幅広く御意見をいただくため開催するものです。限られた時間とはなりますが、皆様方から忌憚のない御意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○大澤港湾課港湾整備担当課長　ありがとうございました。

３　出席者紹介

○大澤港湾課港湾整備担当課長　次に、出席者紹介についてです。出席者の紹介につきましては、時間の都合もございますので、お手元にございます委員名簿及び幹事名簿で御確認いただければと思います。なお、ウェブ会場でのご参加になります東北地方整備局企画部長の中平委員につきましては、30分程度遅れるということで連絡がありました。あと山王委員につきましても10分程度遅れるという報告がございましたので、御報告いたします。

４　委員長選出

○大澤港湾課港湾整備担当課長　それでは、次第に従いまして委員長選出に入らせていただきたいと思います。

久慈港長期構想検討委員会設置要綱第４条第２項の規定により、委員長が会議の議長となるとされております。本日が初めての会合でございますので、委員長が選出されておりません。委員長の選出につきまして、どなたか御意見ありますでしょうか。

○事務局（久慈会場）　久慈会場でございます。兼田委員からご発言いただきます。

○大澤港湾課港湾整備担当課長　お願いします。

○兼田委員　久慈港運の兼田でございます。よろしくどうぞお願いいたします。

委員長については、事務局のほうから御提案いただければよろしいのかなと思います。よろしくどうぞ。

○大澤港湾課港湾整備担当課長　ありがとうございます。今久慈会場の兼田委員から、事務局のほうでという意見がございましたが、いかがでしょうか。

「異議なし」の声あり

○大澤港湾課港湾整備担当課長　では、事務局から意見をよろしくお願いします。

○乙部港湾課総括課長　事務局をしています港湾課総括課長をしています乙部と申します。よろしくお願いします。

事務局としましては、地域計画や交通計画を御専門とされていまして、久慈港における港湾物流と土地利用の関係を長期的な視点で御助言いただけると思われることから、宮城大学の徳永委員を推薦させていただきたいというふうに思います。いかがでございましょうか。

「異議なし」の声あり

○乙部港湾課総括課長　異議なしということで、徳永委員よろしくお願いします。

○大澤港湾課港湾整備担当課長　それでは、徳永委員に当委員会の会長をお願いいたしたいと思います。徳永先生、どうぞよろしくお願いします。

○徳永委員長　宮城大学の徳永でございます。ただいま委員長に選出されましたわけですが、私は宮城にいるということで、久慈港とは直接の御縁はあまりないわけでございますけれども、東北港湾ビジョンですとか、さきの宮古港の長期構想、こちらにも関わらせていただいたというところで、今回久慈港のほうにも委員長役として務めさせていただければと思ってございます。本日は何分会場が別々、さらにウェブ参加の方々もいらっしゃるということで、なかなかやりづらいところはあるかとは思うのですが、皆様方から忌憚のない御意見をいただきながら進めていければというふうに思ってございますので、よろしくお願いいたします。

５　議題

（１）設立趣旨について

○徳永委員長　それでは、次第に従いまして議事を進めてまいります。

まず、（１）の設立趣旨についてということで、事務局から御説明よろしくお願いいたします。

○乙部港湾課総括課長　現在の久慈港港湾計画でございますけれども、

昭和61年に改訂されて以降30年以上が経過し、その間2050年カーボンニュートラルの実現や検討が進んでいる久慈市沖の洋上風力発電事業、また三陸沿岸自動車道の開通など、久慈港を取り巻く状況は大きく変化してございます。

岩手県では、これらの変化に対応していくため、今後20から30年程度の長期的視点に立った久慈港の利用及び整備の基本的な方向性を示す港湾のビジョンとなる久慈港長期構想を策定することといたしました。このため学識経験者をはじめとしまして、地元関係者、港湾関係者など地域の皆様の多様な意見を反映させることが必要であることから、皆様からの助言、提言をいただく場として本委員会を設置するものでございます。よろしくお願いします。

○徳永委員長　ありがとうございました。

ただいまの御説明につきまして、何か御質問、御意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

「なし」の声あり

（２）久慈港の現状と課題及び策定の方向性について

○徳永委員長　それでは、次の議題の（２）でございますけれども、久慈港の現状と課題及び策定の方向性について、事務局から御説明よろしくお願いします。

○本城谷港湾課主任主査　事務局の県土整備部港湾課の本城谷と申します。それでは、資料―５によりまして、久慈港の現状と課題及び策定の方向性について御説明いたします。

説明の流れですが、２番の久慈港の現状から久慈市の現状と久慈港を取り巻く環境変化、久慈港の方向性、最後に参考資料の順で説明いたします。

それでは、久慈港の現状について説明いたします。久慈港は、県沿岸部の北部に位置し、古くから漁業の拠点として栄え、昭和30年代以降は漁業に加えて鉱産品や林産品等を搬出する港として発展してきて

います。現在津波からの防護と港内の静穏度を確保するため、湾口防波堤の整備が進められています。

昭和50年４月に重要港湾に指定、昭和60年11月に現在の港湾計画に改訂され、平成23年には東日本大震災の発生、令和３年には三陸沿岸道路の仙台―八戸間が開通しています。久慈港につきましては、４つの地区、湾口地区、諏訪下地区、半崎地区、玉の脇地区で構成されています。

続きまして、久慈港の全体貨物について説明いたします。取扱貨物については、薪炭と言われるヤシ殻でバイオマス発電燃料の輸入、硅石と言われる鉄鋼やセメント材料の移出、船の一部となる船体ブロックや鋼材の移出入、復興道路の資材などの移入があり、増加傾向となってきていましたが、復興道路事業の進捗などにより令和３年は減少しています。

続いて、貨物の輸移出入別について説明いたします。輸入については、平成28年から薪炭が安定して取り扱われています。

輸出については、原木の取扱いが令和３年から始まっています。

移入につきましては、復興道路のための再利用資材が増加してきていましたが、令和３年12月に全線開通に伴い、復興道路の事業が完了しています。

移出については、硅石が増加している状況です。

なお、最近では内陸部の陸上風力発電のための部材が陸揚げ、保管されている状況でございます。

続きまして、久慈港港湾施設の概要と利用状況です。初めに、諏訪下地区でございます。新港と言われる赤枠、赤の丸の部分につきましては、主にバラ貨物が主体となっており、内陸部の風力発電のための部材の取扱いも出てきております。また、クルーズ船については、10メートル岸壁に着岸しております。

一方で、青枠の部分、掘込と言われる部分と、玉の脇地区につきましては、主に水産品を取り扱っているという状況でございます。

続きまして、半崎地区でございます。半崎地区については、主に船

舶の部品となる鋼材や工場で製作した船体ブロックの取扱いが主体となっております。また、地下石油備蓄基地や久慈地下水族科学館の「もぐらんぴあ」が立地しておるという状況です。

続いて、久慈港の入港船舶です。入港船舶は、漁船が最も多く、近年は約2,000隻から3,000隻で推移し、続いて内航商船の利用が多く、200隻から300隻の推移となっています。

船の大きさ、船舶サイズにつきましては、100トン以上の船舶の割合が徐々に増えてきており、漁船を除くと少しずつ大型化の傾向が見られるという状況でございます。

続きまして、久慈港背後の立地企業の概要です。久慈港背後には水産加工品関係や石材等を取扱う工業関係、造船会社や石油備蓄基地が立地しています。

久慈市の隣にある野田村には、バイオマス発電会社があり、薪炭の取扱いにおいて、諏訪下地区の港湾を利用しております。

また、久慈市では積極的な企業誘致を行っており、現在では市内に18社の企業を誘致しています。

久慈港から２キロメートルの距離には工業団地がありまして、数社が既に立地している状況でございます。

続きまして、久慈港の施設の経過年数でございます。久慈港の港湾施設は50年を経過しているものがあり、一部では損傷が見られます。今後50年以上経過する施設が増えてきまして、30年後には88％が50年を経過するという状況でございます。

続いて、クルーズ船の寄港状況です。久慈港では、平成26年に「にっぽん丸」が初入港して以来、邦船である「にっぽんまる」と「ぱしふぃっくびいなす」の入港がございます。着岸は、全て諏訪下地区の10メートル岸壁、長さ185メートルとなっておりますが、こちらのほうに接岸しております。

続いては、港における賑わい空間についてです。写真右側の半崎地区の「もぐらんぴあ」につきましては、「みなとオアシス」に認定されており、港の交流拠点、情報発信などを担っています。

また、久慈港港内には緑地公園なども整備されており、県民などに利用されているという状況でございます。

続きまして、防災への対応状況です。久慈港背後地域の津波被害の軽減と港内の静穏度確保のため、湾口防波堤の整備が進んでいます。

また、東日本大震災津波からの復旧により、防潮堤や陸閘、自動閉鎖システムなどが整備され、背後地を含めた港湾施設内の安全性が向上しています。また、県では津波防災講座などのソフト対策についても行っております。

なお、大規模地震が発生した場合に物資の緊急輸送等に対応するため、諏訪下地区において耐震強化岸壁が計画されています。

右下、ちょっと見にくい図なのですが、国が公表している海溝型地震の評価結果となっておりますが、東北地方の太平洋側が地震の発生確率が高い状態となっております。

続きまして、久慈市の現状と久慈港を取り巻く環境変化についてです。初めに、久慈市の人口です。久慈市の人口につきましては、県全体と同様に減少傾向にあり、令和２年には３万4,000人となっています。

年齢区分別では、65歳以上の老年人口の割合が増加し、ほかの年代の割合が減少しているという状況でございます。

続いて、久慈市の産業構造です。久慈市の産業構造は、岩手県と比較し、１次、２次産業の割合が大きくなっています。

産業分類で見ますと、建設業の割合が最も多く、次いで不動産業、製造業の割合が大きくなっています。

年度別の総生産ベースでは、２次産業の増加割合が大きくなっているという状況でございます。

続きまして、水産業の動向です。久慈港の水産業につきましては、漁業就業者数の減少により、水揚げ高は全体的には減少していますが、近年はまき網船の入港によりサバ、イワシ等の漁獲量が増加してきております。

また、久慈港の沖合には区画漁業権、定置漁業権、共同漁業権が設定されており、広範囲に水産活動が行われています。

湾口防波堤より内側につきましては、灰色に示しています航路に当たる部分につきましては、漁業権が除外されているという状況でございます。

続きまして、久慈市の観光入込客数です。久慈市の観光入込客数につきましては、平成25年にＮＨＫ連続テレビ小説「あまちゃん」の影響により一時的に大幅に増加しましたが、その後は新型コロナウイルスの影響を受け、減少している状況でございます。

続きましては、久慈市沖浮体式洋上風力発電の動向です。2050年カーボンニュートラルに向けた動きの中で、洋上風力発電は期待される再生可能エネルギーとして国内で取組が進められています。

久慈市沖が再エネ海域利用法に基づく一定の準備段階に進んでいる区域に整理されており、浮体式洋上風力発電についての調査が進められております。

これらの建設のためには、港湾の利用が必要となっており、基地港湾に指定された４港では、洋上風力発電の建設のための港湾機能の充実が図られております。既に秋田港、能代港、鹿島港、北九州港の４港が基地港湾に指定されております。

続きまして、震災からの復興・復旧です。東日本大震災津波によって、久慈市についても海沿いを中心に住宅や工場などが甚大な被害を受けました。

一日も早い復興を目指し、生活の再建をはじめとして水産施設や観光施設などの復旧整備、災害に強いまちづくりのための整備等が行われております。

続いては、三沿道開通による物流・人流の影響についてです。令和３年12月に普代―久慈間が開通し、三陸沿岸道路の仙台から八戸間の359キロメートルが全線開通しました。これにより、釜石自動車道、宮古盛岡横断道路と併せて県内の復興道路が全て開通しました。

久慈地域からも周辺の都市に対しての大幅な時間短縮が可能となり、物流においても大型車が増加するなど効果が出ております。

これまでの説明の内容を踏まえまして、久慈港の方向性について御

説明いたします。まず、久慈港の将来に向けた課題の整理ということで、こちらは方向性のイメージを示したものです。左側から久慈港の特徴、久慈港を取り巻く環境、右側のほうからは久慈港への要望や要請、あといわて県民計画、久慈市の総合計画等を考慮しまして方向性を決めることとしております。

具体的な内容としては、まず久慈港の特徴といたしましては、物流産業として、整備済みの岸壁の最大水深が10メートル、全てがバラ貨物ということ、賑わいとしては、海陸交通の結接点、クルーズ客船の寄港があるということ、安全としては湾口防波堤の整備、防潮堤の完成ということがございます。

久慈港を取り巻く環境といたしましては、社会・経済として、人口減少、少子高齢化、三陸沿岸道路の整備、あと久慈市沖浮体式洋上風力発電の計画、港湾施設の老朽化がございます。

物流・産業としては取扱貨物の変化、船舶の大型化、観光としてはクルーズ船の寄港、自然災害としては巨大地震による津波の発生の懸念、湾口防波堤の整備、防潮堤の完成等がございます。

続きまして、右側、久慈港への要望・要請といたしましては、物流産業については上屋、ふ頭用地の整備や洋上風力発電設備建設に伴う基地港湾の整備、安全につきましては湾口防波堤の整備、耐震強化岸壁の整備があります。

そして、いわて県民計画や久慈市総合計画などにおける港湾に関連する施策を考慮しまして、総合的に方向性を検討いたしました。その内容といたしましては、まず物流・産業につきましては、産業振興に資する港湾機能の向上、賑わい・交流については観光による地域振興の促進、安全・安心については災害に強く、住民や企業の安全安心な港湾機能の強化としております。

以上により、久慈港の主な取組案につきまして、下に３つ示しております。１つ目、物流産業におきましては、既存貨物及び新規産業に対応するための港湾機能の検討、２つ目が賑わい・交流においてはクルーズ客船の受入環境の整備、賑わいの創出、３つ目が安全・安心と

して港湾の防災機能の強化としての湾口防波堤の早期完成、耐震強化岸壁の整備としております。

続きまして、３つの取組案につきまして個別に内容を説明いたします。まず、１つ目の既存貨物及び新規産業に対応に対応するための港湾機能の検討です。現状・要請といたしましては、久慈港におきましてはバラ貨物、薪炭や硅石、非金属鉱物、船体ブロックなどを取り扱っており、近年では原木、陸上風力発電設備の部材等についても陸揚げ、保管されており、今後も取扱いが見込まれる状況です。

また、久慈市沖が再エネ海域利用法に基づく一定の準備段階に進んでいる区域に整理されており、早期に有望な区域や促進区域に指定されるよう取組を進めています。

このことを受けまして課題・今後の方向性（案）といたしましては、バラ貨物や陸上風力発電設備の部材の取扱い、さらには浮体式洋上風力発電設備の組立等に対応するために港湾機能の検討をする必要があるということが１つ目の取組でございます。

続きまして、２つ目のクルーズ客船の受入環境の整備による賑わいの創出です。現状・要請といたしましては、久慈港においては平成26年７月に「にっぽん丸」が客船として初寄港いたしました。以降「ぱしふぃっくびいなす」と「にっぽん丸」が年間１回から３回寄港している状況です。

これを受けての課題、今後の方向性（案）といたしましては、クルーズ客船寄港時の歓迎対応における関係機関との連携、魅力的なオプショナルツアーの提案等、寄港拡大による賑わいの創出のためのクルーズ船の受入環境の整備を検討する必要があるということが２つ目の取組でございます。

続きまして、３つ目ですが、港湾の防災機能強化としての湾口防波堤の早期完成、耐震強化岸壁の整備についてです。現状・要請といたしましては、湾口地区湾口防波堤については、令和15年度の完成を目指して整備が進められていること、また防潮堤は全て完成していること、諏訪下地区の耐震強化岸壁は未整備であること、湾口防波堤及び

耐震強化岸壁については早期整備の要請があること。

これを受けまして、課題・今後の検討の方向性といたしましては、津波対策のため、湾口防波堤の早期完成が必要であること、港湾ＢＣＰの確実な実施のため、ソフト対策や耐震強化岸壁の整備を含めた防災機能の強化について検討する必要があるということが３つの取組でございます。

最後に、今回久慈港の長期構想の策定に当たっての参考資料を添付しております。参考資料につきましては、時間の関係で説明は省略いたしまして、項目のみ説明いたします。（１）、（２）番につきましては、国が策定しております港湾の中長期政策、東北港湾ビジョンとなっております。（３）、（４）番が県民計画や久慈市の総合計画、（５）が国のカーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略、（６）、（７）が県の温暖化対策実行計画や海洋エネルギー関連産業創出ビジョンとなっております。（８）がＳＤＧｓに向けた取組、（９）が我が国で増加する自然災害リスク、（10）から（12）が国の港湾関係の施策となっております。最後、（13）に長期構想の参考例といたしまして、当県が令和２年度に策定いたしました宮古港の例を添付してございます。

以上で久慈港の現状と課題及び策定の方向性についての説明を終わります。

○徳永委員長　ありがとうございました。それでは、ただいまの説明を受けたという形で各委員の皆様から日頃久慈港で感じていること、考えていること、そういった御意見、御提言をいただければというふうに思ってございます。会場が分かれているということもあり、まずは地元の関係者が多くいらっしゃる久慈会場のほうから順番に御意見をいただければというふうに思ってございます。

それでは、各会場の席順ではあるのですが、私のほうから御指名させていただきますので、ちょっと人数が多いものですから、お一人二、三分でということで恐縮なのですけれども、お願いできればと思ってございます。

それでは、まず久慈会場で久慈市長の遠藤委員いかがでしょうか。

○遠藤委員　御指名いただきました久慈市長の遠藤でございます。何点かお話をさせていただきたいというふうに思います。

まず、久慈港の湾口防波堤の関係でございます。湾口防波堤につきましては、国土交通省と岩手県にはその整備について予算確保と事業進捗をいただいております。ありがとうございます。

津波、高潮対策に対する防災機能、それから浸水エリアの縮小、生命、財産を守るもので最も重要な防災基盤であります。整備効果といたしましては、津波防災、航行船舶の安全などの安心安全の側面と、港湾を活用した必要なものの出入りする玄関口として機能の強化が使命であるというふうに考えています。

静穏度の向上によって、船舶避難のための泊地、船舶の安全航行、荷役作業など安全な港湾作業につながります。国家石油備蓄基地における原油放出に際しても重要です。また、北日本造船の荷役作業の安全性が向上することが期待されています。

静穏度の向上は、今後の貨物取扱量にも貢献するものです。港湾施設の利活用の推進にいい影響があるものと確信しております。完成年度は、令和10年から令和15年への延長というふうになりましたが、早期の効果発現を期待しています。

次に、港湾の防災面ですが、現在課題となっております日本海溝・千島海溝沖地震に備えまして、広域的な防災拠点、物資供給拠点となるためにも耐震強化岸壁の整備をお願いいたします。

次に、施設の関係でございますけれども、久慈港は主要な貨物である硅石が高炉用のため、水濡れ対策に苦慮しております。また、融雪剤についての貨物の引き合いがあるところでありますので、ぜひとも上屋等の整備をお願いしたいと考えています。

また、原木輸出、ＰＫＳ、風力発電部材の輸入実績があります。今後もこれらがさらに見込まれる状況にございますので、スムーズな荷役業務ができるように開港に向けた取組を県とともに行っていきたいと考えております。

次は、水産業の関係もございます。海洋環境の変化等に伴いまして

主要魚種であります秋サケやスルメイカの水揚げ量が非常に厳しい状況にあります。この中にあって、久慈港湾口防波堤の工事の進捗によります静穏水域を活用した新たな魚類養殖としてギンザケの海面養殖を令和３年10月から事業展開をしていただいています。令和４年の水揚げ量が672トンでありまして、計画の600トンを大幅に上回る順調なスタートとなっています。この新たな水産業の柱となるギンザケの養殖をはじめ久慈湾内の漁場の磯焼け対策や藻場の回復に向けた取組などを関係機関と連携して推進していきたいと考えております。

観光の観点でございますが、「もぐらんぴあ」は地下水族科学館として久慈市の重要な観光資源でございます。震災復興についての情報発信施設ともなっておりますので、交流人口拡大に向けて今後も拠点機能を強化していきたいと考えています。

クルーズ船に関しましては、国内の３社が有するクルーズ船がございますが、最低限の接岸可能な岸壁整備をぜひともお願いしたいと考えています。飛鳥Ⅱは、全長240メートルありますが、久慈港には接岸できない状況にございます。また、湾口防波堤完成後は静穏水域を活用したマリンスポーツなどの体験型アクティビティを実施したいと考えておりますほか、小型の漁船などに乗船して養殖施設を見学する、あるいは刺し網漁の体験を行うなど、１次産業への理解を深めるための観光資源としても活用できるものと考えています。

最後に、エネルギーの関係でございます。令和３年９月13日、経済産業省、国土交通省において久慈市沖が再エネ海域利用法に基づく促進区域の指定に向けた一定の準備段階に進んでおる区域に整理していただきました。久慈市沖洋上風力発電事業の海域に最も近い久慈港の基地港湾利用は設備の組立て、設置、管理、メンテナンスの効率的な実施、そして地域経済への影響を考慮すると必須であると考えています。

また、久慈市沖の南北にあります国セントラル調査対象となっている洋野町、そして野田村の沖合も含めて案件形成が進むことが予想されております。また、水素をエネルギーとして日常的に利用しようと

する動きが拡大しています。また、第６次エネルギー基本計画では水素社会実現に向けた取組の抜本的強化がうたわれています。久慈地域に不安定な再エネ電源が多数立地することが想定されていますので、余剰再エネの有効利用とエネルギーの安定供給の観点から久慈臨港地区を中心に水素、アンモニアの生産、貯蔵、利活用に携わる企業の誘致を行っていきたいというふうに考えています。

私からは以上でございます。

○徳永委員長　ありがとうございました。

それでは、続きまして久慈青年会議所の大沢委員よろしくお願いいたします。

○大沢委員　久慈青年会議所の理事長をしております大沢絢一と申します。よろしくお願いいたします。

私どもの団体は、40歳までの青年で構成している団体であります。私たちが住んでいる地域では人口減少、少子高齢化が進み、賑わいや交流などが私たち世代にとっては、子供たちも含めて大事なものだと思っております。湾口防波堤ができたり、久慈港のエリアが新たな産業が生まれることで仕事や子育てにつながるような、そういったエリアができてくれればいいなと思っております。

私たちは、それぞれ会社や勤務先がございますので、積極的に関与することはできないかもしれませんが、ソフト面やイベントであったりとか、そういった賑わいの創出について行動していけると思っておりますので、私たちもこの長期構想計画に賛同しながら行動していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○徳永委員長　ありがとうございます。

続きまして、久慈市漁業協同組合の川戸道委員よろしくお願いいたします。

○川戸道委員　久慈市漁業協同組合の川戸道といいます。よろしくお願いいたします。

私のほうからは、先ほど遠藤市長さんがお話しになりましたギンザケの養殖についてお願いをしたいというように思います。というのは、

ここ数年、正直なところ海産物の水揚げが減ってきております。それに代わる漁協の産物といいますか、それでギンザケ養殖に着手したわけですが、今年度漁協としては初めての水揚げというようなことでございました。今後何とかこれを維持して、ひいては将来的には漁業者の皆さんが何とかできるような、そういう構想を持っておりますが、その辺をよろしくお願いいたします。

それと漁業者の皆さんからの要望でございますけれども、今現在久慈市漁協には上架施設がありますけれども、これはもう何十年だっけ、結構たちまして、老朽化が激しいということで、そちらも大変ですけれども、久慈市漁協管内には定置組合が７組合あります。その漁船はみんな19トン型といいますか、そういう大きな船でやっておりますので、５トン未満の漁船は何とか今の浄化施設で対応しているわけですが、ほとんど管内の定置漁船は近隣の上架施設に回航し、そこで上架するというような、何とも面倒といいますか、そういうことで大変苦慮しております。これも港湾が完成して、静穏度が保たれるということになればそういうものも一つ考えていただければなと、このように思います。

私のほうからは、その２点でございます。

○徳永委員長　ありがとうございました。

続きまして、八戸税関支署長の浅川委員よろしくお願いいたします。

○浅川委員　八戸税関支署の浅川です。よろしくお願いいたします。

私のほうからは、まずクルーズ船の寄港計画を予定しているということなのですが、こちらのほうはクルーズ船が入るようになってくると職員をうちのほうで派遣していかねばならなくなってきますので、それに対する施設のほうをぜひ、ＣＩＱが入ってくるものですから、その降りてくるお客の貨物検査とかを行う施設を充実していただければと思っております。

あと風力発電及びバラ貨物の輸出入貨物につきましては、関税がフリーの場合は本船扱いといいまして、本船に積んでいながら輸出入申告ができるという制度が利用できるのですが、もしそちらのほうを利

用できない場合は、当然ふ頭、バースに貨物を置いた状態で輸出入申告をしていただいてから、船に積み込んでいくという感じになってきます。ですので、やはり人の整備はぜひとも必要になってくるかなと思っております。特に風力発電の機械は中国もしくはＥＵのほうから輸入されるケースがかなり多いですので、もちろん海外から来るということは、うちのほうに輸入申告されるということですので、そちらのほうも含めてふ頭の整備をしていただければと思います。

私のほうからは２点、以上でございます。

○徳永委員長　ありがとうございました。

引き続きまして、八戸海上保安部の、本日は代理で吉本委員に来ていただいていますが、よろしくお願いいたします。

○吉本委員代理（松川委員）　八戸海上保安部部長の代理で来ました交通担当次長の吉本といいます。よろしくお願いします。部長の代理ということで、八戸海上保安部として云々ということは発言できないので、私の専門の交通担当の次長という立場から発言させていただきます。

震災の復興もほぼ終わったところでありますので、これから先さらに進展させていくために、久慈港では洋上風力発電などに力を入れていただいていますけれども、こちらについても船舶の航行の安全に配慮いただいてＡＩＳをつける、明かりをつける等船舶の航行安全に配慮していただければと思います。私からは以上です。

○徳永委員長　ありがとうございました。

続きまして、「もぐらんぴあ」の宇部委員よろしくお願いいたします。

○宇部委員　「もぐらんぴあ」の館長の宇部といいます。よろしくお願いいたします。

「もぐらんぴあ」は、資料にもございますとおり「みなとオアシス」に認定されておりまして、先ほど遠藤市長さんから御紹介いただきましたが、港の交流拠点、情報発信などを担いながら現在に至っております。

久慈港の主な取組の中で、主に賑わいとか交流といった部分に関し

まして、どのような形でさらに久慈港に寄与していけるかということにつきまして中心的に提案といいますか、検討させていただきたいと思っておりました。

よろしくお願いいたします。

○徳永委員長　ありがとうございました。

続きまして、日本地下石油備蓄の名取委員よろしくお願いいたします。

○名取委員　日本地下石油備蓄の久慈事業所長の名取でございます。よろしくお願いします。

久慈地下石油備蓄は、基本的に国の石油を地下の岩盤に備蓄して、いざというときにそれを緊急時に備えて緊急放出して、日本のエネルギーの安定に備えるというものでございます。そういう中で、先ほどございました大きなタンカーが、その緊急放出のときには久慈港の中に入るような形になります。

遠藤市長のほうからございましたように、湾口防波堤の整備というのがとても大切な項目になってまいります。なぜかと申しますと、緊急放出のときにはかなりの準備期間が要りまして、多くの日数が準備にかかります。それが湾口防波堤ができることによって荒天待機、いわゆる波が高いときには船からの荷揚げができないことによる準備日数が大きく改善することになりますので、国家のいざというときの原油の放出が迅速になり役に立つというようなことがあるかと思います。

また、そういう訓練等においても、地域活性化にもつながるのではないかと思います。種々検討には積極的に取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上でございます。

○徳永委員長　ありがとうございます。

それでは、続きまして久慈港運の兼田委員よろしくお願いいたします。

○兼田委員　久慈港運の兼田でございます。この会議に入る前にいろいろとどういうふうなお話をしたらいいのかなとある程度考えてきたの

ですけれども、ほとんど遠藤市長に、本当に率直に私よりずっと説得があるような形で御説明いただいて、ありがとうございました。

私のほうからは、この会議には直接はあれなのですけれども、今現在の取扱貨物の現状を簡単に短く御説明したいと思います。実は硅石に関しては、今現在はセメント用と、それから高炉用というか、高炉というのは製鉄所の炉の温度が上がるのを避けるために、いわゆるカロリー調整剤として注入する硅石でございまして、主に君津とかＪＦＥ、その他に行っております。

あともう一種類はＡＬＣといいまして、これは旭化成建材といいまして、いわゆる外壁材の骨材になるということで、これも５年前から日本のＪＩＳ規格を取って順調になっておりますが、今現在採掘場であります東立鉱業のほうが結構今現在の採掘が逼迫してきておりまして、今急いで鉱山開発のほう、岩手県さんとも協議しながら進めておるところでございます。

あとここにも載っていたのですけれども、原木の輸出というふうにあったのですけれども、これ昨年からぐんと上がったのですけれども、これはコロナ禍の中のウッドショックでアメリカの需要が増えたということで中国向けにいったのですけれども、今中国とアメリカの貿易摩擦ということでちょっとストップしております。これちょっとまたこれに関しては、またメーカーさんとのやり取りとかで今後どうなっていくかというのも明確な答えが出てくると思います。

これ余談になりますが、実は昨年11月に久慈港内に東北港湾福利厚生協会という団体、我々の協会なのですけれども、そこの協会のほうから久慈港休憩所といいまして、久慈港で従事する人間がお昼休み休憩したりしまして、それが整備されたことも併せて御報告いたします。

以上でございます。ありがとうございます。

○徳永委員長　ありがとうございました。

それでは、引き続きまして県北広域振興局長の坊良委員よろしくお願いいたします。

○坊良委員　それでは、岩手県の県北広域振興局町の坊良と申します。

よろしくお願いいたします。

事務局のほうから説明がありましたけれども、東日本大震災津波以後、海岸保全施設の復旧、復興、そして三陸沿岸道路の開通という中で、大きな久慈港を取り巻く環境というのは本当に変化をしてきているということであります。さらには、その次のステップということで再生可能エネルギーなどの導入の動きもあるということでございます。近い将来久慈港への期待される役割というものは産業、観光、水産業、様々な点において非常に重要な役割が期待されると、そういった役割を担っていかなければならないというふうに思っております。

そういう意味で、この20年後、30年後を見据えてどういったようなことを描き切るかといったようなところが大きなポイントになってくるかと思いますけれども、今現在動いているものとプラスして本当のこの久慈港をどうしていきたいのかといったようなところを皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

また、県北広域振興局、県の総合出先機関ということでありますので、久慈市、地域の方々と一緒に考えながら、その実現に向けて、県としてできることをしてまいりたいと思っておりますので、様々な協力をしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○徳永委員長　ありがとうございました。

それでは、今度は盛岡会場のほうからということで、こちらから順番にお願いしたいと思いますけれども、久慈商工会議所の山王委員よろしくお願いいたします。

○山王委員　久慈商工会議所の山王と申します。よろしくお願いします。前回委員会の集まり、ちょっと出席できず、すみませんました。ちょうど県内の９つの商工会議所の会頭の集まりがありまして、復興庁をはじめ国交省、財務省とか回ってきまして、各商工会議所の代表が要望してまいりました。

その中で、私が一番のメインである洋上風力に対して力を込めて強くアピールしながら行ってまいりましたので、いい流れでは官僚の方も思っている次第でございます。

最後は、なかなか会ってくれないと思っていたのですけれども、鈴木財務大臣に直接会えて非常にいい雰囲気でのお話でいっていましたので、非常に期待されていますので、それらの報告といたします。

いずれ私も商売やっている人間として、基本は常に国、県、行政ばかりに頼らず、景気というのは自ら民間的な発想で景気をつくるというのが基本だと思いますので、行政をはじめ国がお膳立てをしてあぐらをかいたような姿ではなくて、自ら仕事をつくるという、そういうふうな思いをどんどん管内の方にアピールしたいと思っていますので、よろしくお願いしたいと思います。

以上でございます。

○徳永委員長　ありがとうございました。

続きまして、代理出席ではありますが、岩手県のふるさと振興部から藤原委員代理でよろしくお願いいたします。

○藤原委員代理（熊谷委員）　ふるさと振興部長の代理で参りました科学・情報政策室長の藤原と申します。

久慈市長さんからもちょっとお話があったのですけれども、当室におきましては海洋利用、本県の重要な資源である海洋利用ということで、海洋エネルギーに関する振興を行っております。今回の参考資料の中の海洋エネルギー関連産業創出ビジョンも当室の所管でございまして、特に洋上風力ですね、全国で先駆けになります浮体式ということを久慈沖のほうで検討している関係がございます。そちらのほうで久慈港につきましては最寄りの基地港湾ということで、非常に期待が大きい施設になりますので、こちらの整備につきまして関係者の皆様の御理解をいただきながら整備していただければ、さらに拍車がかかると思っております。

また、海洋エネルギーにつきましては、現在外国からの設備が多いというお話もちょっとございましたけれども、国のほうでも国産化に向けたような動きもございますので、産業としても将来的には期待したいなと考えておりましたので、これも裾野の広い産業というふうにも言われておりますので、その部分につきましても地域振興の一翼に

なるかなと考えております。

以上でございます。

○徳永委員長　ありがとうございました。

それでは、引き続きまして岩手県商工労働観光部長の岩渕委員の代理で高橋様よろしくお願いいたします。

○高橋委員代理（岩渕委員）　商工労働観光部長の代理で来ました観光・プロモーション室の高橋です。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、協議をすると、観光については三陸の観光が非常に大事だと部長からいつも言われておりまして、特にも人口減少の中にあって交流人口の拡大をして地域振興を図っていくためには、観光は農林水産業をはじめ様々な製造業の中にあって、総合産業にあるという位置づけでございまして、私どものほうも三陸の観光が非常に重要だということは部長室に入るたびに言われているところでございます。

そういった中で、今まで盛岡に設置しておりました三陸ＤＭＯセンターというのがございますけれども、今年から宮古に移転しまして、様々関係機関と連携を深めているところでございますが、特にも港湾の関係では、もちろん港湾課さんと連携しながら進めておりますけれども、特にクルーズ船とかオプショナルツアーの関係とか、様々な点で連携していく必要があるのかなというふうに思っておりまして、今までも宮古市さんとの連携もしておりましたが、久慈市さんとの連携もさらに深めていきたいというふうに考えているところでございます。

今年は、特に体験型ツーリズムの磨き上げ、あるいは「さんりく旅しるべ博」など三陸ＤＭＯセンターでは繰り広げているというところでございます。ＤＭＯセンターというのは、なかなか聞き慣れていない方もいらっしゃるかもしれませんけれども、データ分析に基づいて関係機関と連携して観光地域づくりをするというのが目的となっておりまして、今後も沿岸の各市町村と連携しながら観光の視点から地域振興を図っていきたいというふうに考えております。

こちらの三陸ＤＭＯセンターには、今センター長のほか観光のプロデューサーが２名、それとあと観光のコーディネーター１名というこ

とで、人員のほうも増強しておりまして、まさにオプショナルツアーとか、そういったところに一緒に協力していけるのかなというふうに思っているところでございます。

そしてまた、冒頭話のありました新たな交通のネットワークができてきたり、新たなまちづくりというところをフックにした形での観光の磨き上げも進めてまいりたいというふうに考えておりますので、そういった観点で様々観光の視点で取組を強化していきたいというふうに考えております。

なお、先ほど遠藤市長がお話しになったとおり、クルーズ船の関係で岸壁の整備が必要だという話のほかにマリンスポーツとか、アクティビティが必要だという話がありましたけれども、特に最近はインバウンドの方々ですね、アクティビティとか、そういった点については非常に関心を持っているという点もありますので、今後20年、30年の長期計画構想を見据えてということでしたので、今はなかなかインバウンドは来ていないという状況ですが、規制緩和の上限が撤廃されて、今後徐々に増えてくる中で、港湾のほうにも港を通じたインバウンドの方の人がふえてくるのかなというふうに思っておりますので、そういった中でぜひ久慈港に多くのお客さんが来ていただければなというふうに思っておりますので、そういった点での支援をしてまいりたいというふうに考えていますので、よろしくお願いしたいと思います。

○徳永委員長　ありがとうございました。

続きまして、岩手県県土整備部長の田中委員よろしくお願いいたします。

○田中委員　田中です。いろんな御意見いただいておりまして、大変ありがとうございます。

久慈港の二、三十年先の将来を考えるときに、やはり今の時代としては環境というのは切り離すことはできないキーワードだと思っています。盛岡以北で言うと、内陸だと葛巻町で風サミットというのが開かれるなどクリーンエネルギーの資源がいっぱいある久慈も含めて、エリアだと思っています。久慈だと洋上風力発電の調査が進められて

おりますし、周辺の海域でも調査が行われているということなので、そのクリーンエネルギーをまずキーワードとして、久慈港に賑わいだとか、あるいは物流拠点だとか、新しい産業がうまく張りついていくような方向性としてこの長期ビジョンに盛り込むようなことができればすごく立派なビジョンになるのかなと思っていますので、そういった観点でも今後とも御意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○徳永委員長　ありがとうございました。

引き続きまして、岩手県の農林水産部長の藤代委員の代理で太田様よろしくお願いいたします。

○太田委員代理（藤代委員）　水産振興課の太田と申します。本日は、農林水産部長の代理で参加させていただきました。よろしくお願いいたします。

水産振興の観点からいきますと、先に遠藤市長、川戸道組合長からもお話の中に取り上げていただいておりますが、ギンザケの養殖というものが現在展開されております。今、水産業は、主要な魚種が極端な不漁に見舞われておりまして、漁協、漁業者、あとは前浜の資源を利用している水産加工業者の方に深刻な影響を与えている中で、この湾口防波堤の内側の静穏域を利用した海面のサケ科魚類の養殖というのが久慈をはじめ県内では注目を浴びているところでございまして、本格的に進めていくことが水産振興の一つの柱と期待しているところです。

あとほかの分野でいきますと、洋上風力と従来からある漁場と重複する部分もあります。そういった部分でもお互いにウインウインの関係になるような形で、協調して進めていければいいのではないかというふうに考えているところでございます。

私からは以上です。

○徳永委員長　ありがとうございました。

続きまして、岩手県環境生活部長の福田委員の代理ですが、阿部様よろしくお願いします。

○阿部委員代理（福田委員）　環境生活部長の代理で参りました環境保全課の阿部と申します。よろしくお願いいたします。

当部では、この久慈港をめぐりまして幾つか関係のある部分というのがあるなと思いまして、１つは再生可能エネルギーの利用促進というところを担当しております。その中で、特に先ほどお話がありましたとおり水素の利活用の部分で県の水素利活用構想を策定しているということがございまして、例えば先ほどからお話ありました洋上風力の電力を、これは海外の事例ですけれども、海水をその電力を使って電気分解し、その水素を貯蔵してエネルギー源として使うといった中で電気分解装置、そちらを港湾の中で設置するというような取組も行われているというふうに聞いております。そういった中で、再エネ促進の部分でいろいろお手伝いができるのではないかというふうに感じております。

加えまして、環境生活部ということで、海域ですね、久慈港水域の水質の問題については引き続き対応させていただいておりますし、海岸漂着物対策を含めた海洋の環境の保全という意味では、これも今後の久慈港を考える上で、目立たないですけれども、重要なポイントではないかなと思っております。

さらに、環境アセスメントというところで私担当しておりますけれども、現在陸上のほうで風力発電が久慈地域は非常に多い状況になっておりまして、先ほど部材の移出入のお話もございましたが、それに加えて洋上風力、将来的にはアセスメントをすることで、さらに環境に優しい形での事業との両立というところが求められているというふうに考えております。

そういう意味で、利用促進から、いわゆる環境規制のところまで幅広く関わる部分があるかなと思っておりますので、引き続き県土整備部をはじめ関係部局と連携しながら取り組んでまいりたいと思っております。

以上になります。

○徳永委員長　ありがとうございました。

続きまして、東北地方整備局港湾空港部長の成川委員よろしくお願いいたします。

○成川委員　東北地方整備局の成川でございます。

実は、私は省庁再編の平成13年、14年と東北地方整備局の計画調査担当しておりまして、その頃から久慈港の長期構想港湾計画というのは近々やらなければいけないなと思っていたところなのですけれども、20年ぶりに戻ってまいりまして、今ようやくこういう機運も高まって、久慈港の長期構想を検討できるということで、非常に感慨深く思っております。

その上で、幾つか御意見申し上げますと、まず耐震強化岸壁の整備というのは非常に要望も強いというところで必要だと思うのですが、ここ何十年間実際に整備ができてこなかったというところもありますので、その原因が何なのかということも分析していただきつつ、またこの計画は昭和61年策定目標なので、もうかなり前ですよね、四、五十年前に検討されたということだと思いますので、その頃からかなりいろんな事情も変わっているのではないかなというふうに思います。ですので、一度白紙に近い形で見直していただいて、耐震強化岸壁の計画がこの場所でいいのか、背後圏まで含めたときに人口構造が変わっていて、本当にこの規模でいいのかといった点も見直していただければと。見直すというか、新たに考えていただくという感じがいいのかなと思います。

そういう意味で、併せてクルーズの受入れに関しましても同様でございまして、このクルーズの受入れがどのような形で行うのかというのも新たな目で見ていただいて、この計画、長期構想に考えていっていただければなと。

そうした意味では、物流全体的に、また基地港湾のこととかも全体的にしっかりと、この長期構想の検討は恐らく先に港湾計画を見据えて、その前段となる長期構想ということになろうかと思いますので、そういうことが必要かなと思ってございます。

また、風力の話が皆さんかなり関心が高いというふうに思いますが、

港湾計画で、この長期構想の中で、後々の港湾計画で基地港ということも想定されていくということも皆さんお考えではないかなというふうに思います。ただ、基地港はあくまでも洋上風力の区域があるということが大前提になっていきますので、個々に検討を進めていくというのはなかなか困難ではないかなと。逆にお互いがうまく連携取れなくて、むしろお互いがよろしくない方向にいってしまうということもあろうかと思いますので、次の委員会から区域の検討のほう、これが恐らく岩手県内の別の部署を中心にやられているのではないかと思いますが、その辺の情報も共有していただいて、その状況を見つつ、それをどうやって基地港の受皿として考えていくのかと、そうした検討の手順が必要なのではないかというふうに思ってございます。

また、長期構想委員会の中で貨物の集荷策ここまでできればいいかなと思っているのですが、貨物の集荷があって、はじめて岸壁の必要性とか、そういうものが出てくるということだと思いますので、貨物をどうやって集荷していくのか、それが岸壁の計画につながり、ひいては地域の活性化ということにつながっていくと思いますので、そうした貨物の集荷についても議論していけたらなというふうに思います。

そうした意味では、何十年ぶりかの長期構想であるかと思いますので、あまり慌ててやらずに、少し時間をかけてじっくりと検討、またいろんな方々の意見を聞いて議論していって、よりいい長期構想、ひいては港湾計画につなげていくというふうにできたらなというふうに思います。

以上です。

○徳永委員長　ありがとうございました。

それでは、引き続き岩手県立大学の千葉委員よろしくお願いいたします。

○千葉委員　16日に船で港湾全体を見せていただいたのは、大変よかったと思っております。

私は、公衆衛生とか食品衛生なので、そちらの立場から少しお話をさせていただくとすると、地域住民の人たちに久慈港に親しみを持っ

て接してもらえるような取組というのがこれから大事だと思います。特に将来久慈を支えていくような年代になる子育て年代の方とか、そのお子さんたちですね。子供さんなんかにケーソンの組立ての現場なんかをいろいろ説明するととてもおもしろがったり、興味を持ったりするのではないかなと思って、私は見ておりました。そういう現在の若い年齢層の人たちに親しみを持ってもらえるような何か取組ですね、そういうものをいろいろ考えていっていただけたらと思っています。

それから、もう一つは食品衛生の立場から申し上げますと、船で回ったときにちょうど正面に魚市場が見えまして、多分漁港の附帯施設として大事なところだと思うのですけれども、先ほどギンザケのお話なんかが出ましたけれども、今は１次産業はなかなか厳しい状況になっていますので、活性化をするという意味とか、ＳＤＧｓの14番ですか、海洋資源に関することとか、そういう面で魚市場の整備もＨＡＣＣＰを根本から、施設から全部造り直しとかということになるとお金がすごくかかって大変なので、できる範囲でなるべく食の安全安心を守って、それで例えばギンザケをその場で地元の食堂なんかで提供ができるようになると、クルーズのお客さんというのは、寄港はするのだけれども、割合とバスに乗ってすぐどこかに行ってしまうというのが、地元で食べておいしいというのが実感されると、それがクルーズの一つの目玉になって、そういうものも取り込んで、地元といろいろな産業が融合して、発展していけるような形になっていくのではないかと思うので、そういう意味では、でしたらば食の安全安心のところに釜石とか大槌……ちょっと県北のほうは食品衛生管理のところが比較的遅れぎみで、そういう意味で少し大槌ですとか、釜石のあたりのお手伝いをしていた時期なんかもありますので、あまりお金をかけないで、なるべく衛生環境をよくするようなお手伝いもできたらなと思って、この間船で回りながら見ておりました。

以上です。

○徳永委員長　ありがとうございました。

それでは、引き続き岩手大学の南委員よろしくお願いします。

○南委員　南です。この久慈港におきまして、昭和50年に重要港湾に指定されたということで、それから47年、半世紀たつということになりますが、国としてというか、国土の中でこの岩手県北において役割を果たしてきたこの港湾の位置づけというのを改めて確認しながら、この二、三十年先の長期構想というのを立てていくということになろうかと思います。荷物を運搬されている量として、取扱貨物がそれほど多いかということは、全国比較ではいろいろあるかもしれませんが、この北東北あるいは岩手を支える一つの重要な港湾としての役割というのを、こうやって改めて資料を見ながら確認させていただいて、これを何とか守り、継続していかなければならないなということかと思います。

それで、何といっても湾口防波堤、そしてまた耐震強化の岸壁等をはじめインフラのほうをしっかり構えて、やはり安全安心な港湾としての位置づけを維持するということが大事だと思います。申し上げるまでもなくですけれども、３月末に岩手県としましても津波浸水想定出ましたし、きのう被害想定も出されまして、久慈市様におかれましては今対応に大変なところかと思いますけれども、そういう環境下においても、あるいは人口減少、少子高齢化という社会背景においても、だからこそここで果たすこの港湾の重要性というのを改めて確認して、安全安心で、重要な位置づけを維持できる、港湾ＢＣＰという言葉も出ておりましたけれども、しっかりと継続、維持できるような形での港湾の整備というのを今後二、三十年かけて、また改めてしっかり整えていく必要があるのだと思います。

そして、その上で展開されるたくさんのことが出ておりますので、繰り返すこともないかもしれませんけれども、エネルギーの問題であり、観光の問題であり、産業の問題がその上で展開されるわけですけれども、そこに久慈というところの特性、岩手と言ってもいいかもしれませんけれども、大きな大都市ではありません、人口４万切ってしまいましたけれども、そういうところでの政策の決定能力ですとか、前に進んでいく地域で事を進めていく能力、潜在力ですとか、そんな

ところにもぜひ注目してほしいと思いますし、これまでいろんなことを見させていただいておりますけれども、新たな取組、水素エネルギーのことであれ、公共交通の取組であれ、中央部においていろんな努力をされているところですので、そうした地域の力というものを国等からも支援をいただきまして、生かしながら、人口は減少していくかもしれませんが、新しい地域社会をつくっていくようなことを展望できたらというふうに思います。今後の二、三十年に期待したいと思います。

以上です。

○徳永委員長　ありがとうございました。

それでは、次はウェブで参加いただいている委員の皆様から御意見いただきたいと思います。

まず初めに、日本紙パルプ商事株式会社の青山委員よろしくお願いいたします。

○青山委員　皆さん、聞こえますでしょうか、日本紙パルプ商事の青山でございます。久慈港のいわゆる薪炭、ＰＫＳの荷主として本日参加させていただいております。

７年前からＰＫＳの輸入の事業をやらせていただく中で、日本紙パルプ商事という会社、皆さんあまり御存じない、東京の紙を中心とした専門商社なのですけれども、県の皆様、久慈市の皆様、それと何の知識もないのにその当時受け入れていただいた税関の方々、それと今は直接的に久慈港運さんを中心に港湾の皆様にお世話になっております。

野田村にある野田バイオパワーＪＰという発電事業会社の親会社という側面をもってＰＫＳの保管、販売を久慈港でやらせていただいているという形です。

私ども今三菱商事さんのような洋上風力発電ができるような大きな会社ではございませんが、せっかくこうやって地元の皆さんに認めていただいたというか、認識していただいた形でせっかくのいい御縁いただいておりますので、何かまた久慈市含めた皆様の地元で何かまた

新しいことをやっていきたい、その結果として久慈港を有効に利用させていただけるようなことにつなげていきたいというふうに思っております。

ぼやっとした発言でございますが、以上でございます。引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○徳永委員長　ありがとうございます。

それでは、岩手大学の松林委員よろしくお願いします。

○松林委員　松林です。聞こえますでしょうか。ウェブから失礼いたします。皆さん、こんにちは。ウェブで失礼いたします。

私は、津波避難などについて研究などで扱わせていただくこともあるのですが、先日伺った際にも以前よりも看板なども増やされて津波の避難経路を示すなど、久慈市さんのほうでいろいろと対策をされているのだなということを感じました。

大変重要な港湾であることは、今日の御説明でも理解できたのですが、私が伺う際に、これかなり個人的な意見になってしまうのですが、海岸線に行きたいなと思うことがあるのですが、久慈市に行った際に海の幸がいろいろあったりとか、魅力的な点が多いのですが、なかなか波打ち際というのにたどり着くのが難しくて、久慈川の河口の北側の部分があると思うのですが、そちらは砂州なので、純粋に言うと海岸線ではないのかもしれないのですが、そちらは市民の方もよくワカメを拾いに行ったりとか、お散歩をされたりして利用されている印象がありまして、そのような海岸利用というのもインバウンドも含めて観光資源として使えるのではないかなと思って海岸付近を拝見することがよくありました。

レクリエーションという何か具体的なものではないのですけれども、波打ち際というのはそこで時間を過ごすだけでもふだん都会にいる人にとってはとても高価な何か価値のあるものかなと思いますので、そういう海岸利用についても何かプランなどあるといいなと思って伺っていました。

以上です。

○徳永委員長　ありがとうございました。

続きまして、青森運輸支局八戸海事事務所長の野﨑委員よろしくお願いいたします。

○野﨑委員　東北運輸局八戸海事事務所の野﨑でございます。今日はウェブ会議で参加させていただいております。よろしくお願いいたします。

私のほうからは、物流に関するソフトの面という形にはなるのですけれども、昨年の12月に三陸沿岸自動車道が全線開通いたしまして、それによって車の流れ、物の流れ等が変わってきていますし、今後もさらに次々流れが大きく変わってくるものと思っております。

そういう中で、久慈の港湾を整備するに当たりまして、陸上の物流、陸上輸送の過密は船舶等を利用する、陸上輸送から海上輸送へのモーダルシフトですか、そういうところが進むように企業さんからも選んでもらうような港、そういう環境とかハード面の整備とかに必要になってくるのかなと、そういうところが重要ではないのかなということで思っておるところでございます。

あとは、賑わいの創出というところになるのですけれども、クルーズ船、あとはインバウンドですか、今はコロナの状況で止まっているところはあるのですけれども、行く行く将来的に20年後、30年後というところを見れば、一度に大きな観光客が来るクルーズ船とか、外国人とか来てもらうということにも進むかとは思うのですけれども、そこも重要だとは思うのですけれども、そもそもの地元の方々たちに港や海、それに親しんでもらうような取組といいますか、毎年７月に全国的に海の日という日を中心としていろんなイベント等も行っているわけですけれども、そういう毎年決まったイベント等を行うことによって、地元の方々にも海や港に来てもらう、親しんでもらう、そういうような賑わいの創出というのも必要なのかなというふう感じているところでございます。

簡単ですけれども、私からは以上でございます。

○徳永委員長　ありがとうございました。

それでは、東北地方整備局企画部長の中平委員よろしくお願いいたします。

○中平委員　東北地方整備局の中平でございます。皆様大変御無沙汰しております。私は、昨年７月まで岩手県の県土整備部長をしておりました。今日御参加の委員の皆様にも、多くの方に当時は大変お世話になりまして、今日こういった形でまた皆様と一緒に委員となり、長期構想を検討すること、大変うれしく思っております。

久慈港に対する期待の声というのは、かなり具体的に出していただいたのではないかなと思いました。長期構想をまとめる上で、期待、効果、機能というのはかなり具体的に出てきたところであります。この効果、機能等を整理する上で、様々働く場や活動するなど、地域の拠点として見る視点、そして岩手県の４つの重要港湾としての位置づけで見る視点、東北地方全体として見る視点といいた階層的に見る視点で整理する面もあろうかと思います。大変期待しております。

私は企画部長という立場で参加しておりますけれども、この企画部長はまだ半年で、岩手県の県庁職員として勤務していたのは３年３か月、久慈港とかなり真っ正面で向き合ってきて、遠藤市長とも随分この港の話はさせていただきました。どちらかというと、岩手県目線でひいき目で期待して検討する面があろうかと思います。具体的な技術面は港湾空港部長にお任せしたいと思っておりますので、ぜひ皆様の御意見聞きながら、いろんなアドバイスができればと思っております。

まとまりない話ですが、以上でございます。

○徳永委員長　ありがとうございました。

それでは、本日オブザーバーということで参加いただいておりますが、国土交通省の港湾計画審査官の山本様よろしくお願いいたします。

○山本オブザーバー　港湾局で港湾計画の担当をしております山本と申します。よろしくお願いいたします。

私も実は東北地方整備局勤務経験がございまして、久慈港は本当に何度も訪れさせていただいた港でございまして、個人的にも大変思い入れのある港でございますし、久慈港が岩手県北部の社会、経済を支

えるという意味では非常に重要な港であるということは重々承知しているところでございます。今回このような場に参加させていただき、本当にありがたいと思っております。

今回長期構想の検討ということで、おおむね30年程度先を見据えての検討ということだと思いますけれども、資料での御説明、それから本日の御意見の中で本当に幅広い視点が示されたのではないかなと思っております。もちろん港湾ですので、物流をはじめとして観光、それからエネルギー、安全、安心という意味でも重要だということ、それから今後整備される静穏域を活用した養殖、海岸線の賑わい、さらには老朽化対策ですね、非常に幅広い観点からお話が出ていたというふうに思っております。今回は長期的な視点ということですので、様々な視点で、可能性を排除することなく非常に幅広い議論の中で今後久慈港をどのように使っていくのかということを、港湾計画ということですと、どうしても施設的なところに話がいきがちではありますけれども、その枠にはとらわれずにどう使っていくのかということを様々な可能性から検討していただけるといいのかなというふうに感じました。特にハード的な面での大きな変化ということで申し上げますと、やはり湾口防波堤が出来上がってくる。それに伴って、広大な静穏域ができてくるということだと思います。これを踏まえて、現状の港湾の施設的な面でいえば、現状の防波堤に囲まれている半崎地区にしても、諏訪下地区にしてもですね、囲まれている範囲よりも、さらに水面側の部分についても、もちろん物流もそうですし、それ以外も含めてですけれども、いろいろな使い方が出てくるということですので、もちろん貨物の今後の見通しもありますけれども、係留施設の観点も含めて久慈港の湾口防波堤側の水域をどう今後活用していくのか、使っていくのかというところをいろいろな可能性から検討していくような長期構想になればいいのかなというふうに思っております。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○徳永委員長　ありがとうございました。

これで一巡したかと思うのですが、大丈夫ですよね。

それで、皆様方から非常に貴重な意見をいただきまして、事務局の説明では足りていなかった部分についても大分意見をいただけたのかなというふうに思ってございます。

それで、ちょっと私のほうからも少しだけ。ほとんど各委員のほうから出された意見に重なる部分もあると思うのですが、まず港湾計画としての長期構想ではありますが、港というのは単に港の活動ということだけではなくて、その地域の経済だったり、産業、経済、それを支えていくものであったり、それから生活面での安全、安心、そういうものにも寄与するということで、非常に重要なものであり、やはりそこを意識していかないと、単に今の港の上での動きだけということでなく、そういう広い視点で見ていくことが必要なのだろうなと思っております。

それから、港湾の物の動きとか、人の動きとかということになると、かなり広域的な動きをしますので、実は久慈のほうだけを見ていてもよく分からないというところがあって、特に岩手県、八戸含めて港湾がかなり密に並んでいるということがありますので、それらとどういう関係にしていくのか、単にライバルなのか、そこと共同して役割分担をしながらやっていくのかというあたりもしっかり意識していく必要があると思います。

それから、例えばクルーズなんかの場合も、この久慈だけでということではなくて、幾つか回っていく、そういう周遊ルートの中での久慈という位置づけになると思いますので、となればどういう客層に対して、どういう戦略で売り込んでいくのかというところが重要ですので、久慈だけでなく、その前後の関係とか、そういうものを見た中での戦略、おもてなし、そういうものを考えていく必要もあるのだろうというふうに思っております。

それから、長期構想ということなので、定性的なこういう方向を目指すということでいいのかもしれないのですが、ある程度図面上に落とし込むというような作業もありますので、となりますとある程度定

性的な議論だけではなく、量の部分ですね、どれだけのものを狙っていくのかというようなことも併せて議論していかないといけないのかなという部分もありますので、その点についても少し御検討いただければいいのかなというふうに思ってございます。

ということで、本日非常に短い時間の中で皆様方から御意見をいただいたところですけれども、これを少し事務局のほうで整理いただいて、次回までに整理して、また皆様方に御提示させていただくというようなことになろうかと思いますので、よろしくお願いいたします。

（３）今後のスケジュールについて

○徳永委員長　それで、今後のスケジュールということになりますけれども、事務局のほうから御説明のほうをよろしくお願いいたします。

○乙部港湾課総括課長　それでは、資料―６の委員会・幹事会スケジュールというところを御覧いただきたいというふうに思います。

本委員会は、３回を予定してございます。本日が第１回の委員会と幹事会ということになってございます。

第２回の委員会ですけれども、11月の開催を考えてございます。本日委員の皆様からいただいた御意見、御提案を踏まえまして、幹事会で調整、検討を行い、久慈港における将来像と目指すべき方向性について取りまとめた長期構想の素案を委員会において策定することとしてございます。

その後、素案についてパブリックコメントを実施しまして、来年３月に予定しております第３回の委員会でパブリックコメントの意見を踏まえながら長期構想の案を取りまとめていきたいというふうに考えております。よろしくお願いします。

それで、皆様につきましては今後ともよろしくお願いしたいというふうに思います。

○徳永委員長　ありがとうございます。

スケジュールにつきまして、事務局から説明ありましたけれども、

今回の意見を第２回の委員会で素案という形で提出していただくということになりますので、よろしくお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、貴重な御意見いただきましてありがとうございました。

以上をもちまして、議題のほう終了ということになりますので、司会のほうを事務局にお戻ししますので、よろしくお願いいたします。

○大澤港湾課港湾整備担当課長　徳永委員長、どうもありがとうございました。

６　その他

○大澤港湾課港湾整備担当課長　それでは、その他になりますけれども、この際皆様から何かございますでしょうか。

よろしくお願いします。

○成川委員　すみません、先ほどのスケジュールに関してなのですけれども、各界からかなり多くの意見をいただいて、多方面にわたる。それをまとめて、将来を目指していくやつをつくってというと、来年の３月までにまとまるものなのかというのがちょっと、せっかくなのでもう少し議論を加えてもいいのではないかなというふうに思うのですけれども、その辺いかがお考えでしょうか。

○乙部港湾課総括課長　今回３回ということで予定してございまして、何とか本年度中には作成したいというふうな方向性で考えたいと思ってございますが、ちょっと急ぎ過ぎだという御意見だと思いますけれども、何とか次というか、今洋上風力発電のほうが大分進んできているという状況もありまして、それのほうの対応というのも考えまして、今年度中には長期構想という形で取りまとめたいということでございますので、何とか事務局のほうで皆様の意見を今回たくさんいただきましたので、取りまとめながら、あと幹事会のほうでいろいろとお話をさせていただきながら、次回には素案という形で提案していきたいというふうに考えてございます。

○成川委員　洋上風力の件をある程度念頭に置かれていると思うのですけれども、逆に今回洋上風力の情報が全然ないので、洋上風力のほうの検討があまり進んでいないのに港湾計画というか、長期構想のほうでの港側の議論が進むと全体としてうまくいかないという点もありますので、少しお考えいただければと思いますのと、またその辺に関しては別途整備局とも相談していただければと思います。よろしくお願いします。

○乙部港湾課総括課長　ありがとうございます。

○大澤港湾課港湾整備担当課長　そのほかございますでしょうか。

「なし」の声あり

○大澤港湾課港湾整備担当課長　久慈会場もしくはウェブ会場の方々、どうでしょうか。

「なし」の声あり

○大澤港湾課港湾整備担当課長　では、その他ということで、もし何かあれば事務局まで後日ご連絡ください。

7　閉会

○大澤港湾課港湾整備担当課長　それでは、閉会となります。委員の皆様、長時間本当にありがとうございました。貴重な御意見いただきまして、これを基にきちんと精査して、次回の委員会に議題を提出したいと思います。

これをもちまして、本日の久慈港長期構想検討委員会第１回委員会・幹事会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。